



学習評価で大切にしたいこと

創意工夫した単元計画を作成

生活科の単元において、妥当性、信頼性のある評価を行うには、学習指導要領に示された9つの内容を基に、各学校で児童の実態を考慮し、2年間にわたって各内容をどの学年でどのように扱うかを、意図的、計画的に構想することが大切です。

活動や体験そのものを重視

生活科は、児童が具体的な活動や体験を通す中で学んでいくことから、評価は、一人一人の多様な学びや育ちが表れる活動や体験そのもの、すなわち結果に至るまでの過程を重視します。

評価の観点及びその趣旨

「指導と評価の一体化」を図るためには、学習指導要領の目標や内容とあわせて、下記に示す「評価の観点及びその趣旨」を確認することで評価の基本的な枠組みを捉えることができます。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付いているとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けている。	身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現している。	身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学ぼうとしたり、生活を豊かにしたりしようとしている。

なお、生活科における「内容のまとまり」とは、学習指導要領に示された9つの内容であり、生活科の単元は、その内容を基に、各学校が意図的、計画的に構成するものです。単元の評価規準を作成する際に、この趣旨を踏まえた上で、単元を構成する具体的な学習対象や活動を位置付けていきます。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の作成

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準を設定する際、下記のⅠ～Ⅲの視点を踏まえ、単元の目標や学習内容等に応じて設定します。その際、評価規準の構造例を参考にします。

- Ⅰ 粘り強さ…思いや願いの実現に向かおうとしていること。
 - Ⅱ 学習の調整…状況に応じて自ら働きかけようとしていること。
 - Ⅲ 実感や手応え…意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとするを繰り返し、安定的に行おうとしていること。
- ※評価規準の構造例…「○○し、●●しようとしている。」等として作成する。具体的な学習活動に即して、○○にはⅠ～Ⅲに関して具体的に表したものを、●●には、単元を通して期待する具体的な児童の姿を記述する。

第1学年 内容(2) 家庭と生活



単元の
評価規準例

家族のことに関心をもって家庭生活を見つめ(Ⅰ)、規則正しい生活を送ったり、自分の役割を積極的に果たしたりして(Ⅱ)、家族の一員であることを自覚し(Ⅲ)、支えてくれている家族に感謝の気持ちをもって意欲的に生活しようとする(●●)。

*Ⅰ～Ⅲの視点は、必ずしも個別に示されるものではありません。具体的な児童の姿が明らかになることが大切です。

3観点を評価する上での留意点

知識・技能

思いや願いの実現に向けた活動や体験の過程において気付いたことについて評価を行います。特に、それらの気付きの質が、「自覚化された気付き」「関連付いた気付き」「自分自身への気付き」等のように高まっているかについて評価します。

思考・判断・表現

思いや願いの実現に向けて気付いたことを基に考え、気付きを確かなものとしたり、新たな気付きを得たりするようにするため、思考を働かせている姿を評価します。多様な学習活動の中で、例えば、「見付ける」「比べる」「たとえる」「試す」「見通す」「工夫する」等の思考が働いているかについて評価します。

主体的に学習に取り組む態度

児童が思いや願いの実現に向けて、対象に関わり続ける姿、自分の活動を見つめ、状況に応じて自ら働きかけようとしている姿、対象への関わりを通して喜びや自信を得た姿、対象に関わる意欲を高めている姿等を評価します。

単元・本時における学習評価の進め方

単元における指導と評価の計画

1と2のイメージは、下記の「指導と評価の計画」へ青枠で示しています。

1 小單元における評価規準の設定

小單元とは、一連の具体的な学習活動のまとまりです。生活科では、結果に至るまでの児童の学習過程を見取るために、具体的な児童の姿として小單元の評価規準を設定します。

2 小單元ごとの評価

生活科では、小單元ごとに評価を行います。小單元によっては、3観点のうちいくつかを評価したり、同一の評価規準について、複数小單元にわたって評価したりする場合があります。

(例) 第1学年 内容(2) 家庭と生活 の授業 ◇ 単元名「みんなのにこにこ だいさくせん」
◇ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
家庭での家族や自分の喜びが、自分の生活と深く関係していることに気づき、家庭での生活は互いに支え合っていることや家庭でできる自分の役割があることが分かっている。	家庭での喜びを増やすため、家族のことや自分でできること等について考え、計画を立て実行するとともに、考えたり、聞いたりして分かったことや気付いたことを表現している。	家族のことに興味をもって家庭生活を見つめ、規則正しい生活を送ったり、自分の役割を積極的に果たしたりして、家族の一員であることを自覚し、支えてくれている家族に感謝の気持ちをもって意欲的に生活しようとする。

◇ 指導と評価の計画 (全9時間)

時	主な学習活動	知	思	主	評価規準・評価方法
(1 小 単 元 1 ・ 2)	・家庭で自分が「にこにこ」するときを思い起こす。				[思・判・表①] (発言・作成物) ・自分が家庭で「にこにこ」している様子を具体的に想起し、表現している。 [主①] (発言・作成物) ・家庭での様々な自分の姿に目を向けようとしている。
	・家庭で自分が「にこにこ」するときの絵をかく。		○ ①	○ ①	
(3 小 単 元 2 ・ 4 ・ 5 ・ 6 ・ 7)	・家族が「にこにこ」するのはどんなときか考える。	○ ①	○ ②	○ ②	[知・技①] (発言・学習カード) ・「にこにこ」が増えると家庭生活をよりよくできることに気づき、家庭での自分の役割が分かっている。 [思・判・表②] (発言・行動・作成物) ・計画を立て家族の「にこにこ」を増やす実践をするとともに、分かったことや気付いたことを表現している。 [主②] (行動・学習カード) ・家族への感謝の気持ちをもちながら、家族の「にこにこ」を増やそうとしている。
	・家族の「にこにこ」を増やす「にこにこだいさくせん」の計画を立てる。(家庭での実践)				
	・実践して気付いたこと等を紹介する準備をする。				
	・実践を紹介し、分かったこと等を生かして「にこにこだいさくせん2」の計画を立てる。(家庭での実践)				

指導に生かす評価
記録に残す評価

生活科では児童の学習状況の全体像を捉え、個人内の成長を認めることが大切です。各単位時間では、小單元の評価規準に照らし、どの観点について特に評価するかを明確にして記録に残すとともに、1単位時間のみならず、複数回の姿を見取り、児童の変容を捉え、指導の改善に生かしていきましょう。

* 例示している「単元の評価規準」と「指導と評価の計画」の形式は、「指導と評価の一体化」のイメージを分かりやすく表したものであり、学習指導案の形式とは異なります。

本小單元における「おおむね満足できる」状況(B)の児童の姿

◇ 評価規準を児童の姿で示した具体例 [思・判・表②]

家族の喜ぶことを意識して自分でできそうなことを考え、改善しながら家庭生活をよりよくするための取組を実行していくとともに、自分の実践が家族の役に立ったことを表現している。

Point 具体的な児童の姿を設定するために

- ・各内容に示された資質・能力を確認し、単元を必然性のある学習活動で構成する。
- ・活動に対する児童の思いや願い、その高まりを想定する。

評価方法の例

- ・継続的な活動の中での対象への関わり方の観察
- ・活動を振り返った発言
- ・気づきを記述した学習カード
- ・家庭や地域の人々からの情報